

MURAKUMO 変容異伝 Details Book

- ame -



Making by Takuto Oshiro

★人間

21世紀初頭に起きた、**認識世界超改変**（ハイパラダイムシフト）により、人間達が、**ルーラー、トップス、ミドルス、ボトムス**、という4つの**階層**に、明確に区分されている世界。

ハイパラダイムシフト以後、この世界の一般的な人間は、生まれてから直ぐに**潜在的知能指数**と両親の所属階層から、トップスか、ミドルスか、ボトムスかのいずれかに振り分けられる。

→先天的階層

学歴、社会的な貢献度で、階層が変わったりもする。→後天的階層

しかし大凡の人間は、先天的階層と後天的階層が同じまま、その生涯を終える。

所属階層は、各々が持つIDカードに刻まれる。

現在、全世界の97%の国々で、このシステムが採用されている。

階層制度は身分制度とは違い、あくまで他人に自分の立場、生き方を明確にさせることで、人間関係を円滑にすることを目的としている。

決して就学、就職、婚姻の自由を制限するものではない。

生命としていかなる階層の者も対等であることを謳っている。

ルーラー

●ルーラー

→ハイパラダイムシフトの仕掛け人達にして、有史以来、歴史の陰から人々を支配して来た、真の意味で世界を掌握する者達。

権力者を超えた権力者。

その存在はトップスの一部の者しか知ることを許されていない。彼らは結託し、トップスを裏から操っている。

彼らにとって、国境も、戦争も、和平も、貿易も、階層も、全ては「自分達の立場を守る為のカード」、なのである。

彼らの目的はただ一つ、「ルーラーによる統治を永続させること」。

彼らに必然や偶然はない。全ては起こるべくして起こること、なのだ。

トップス

●トップス

→政治家、官僚、軍部高級将校、Aランク以上大学所属の研究者、各業界のキャリア、国家試験1種合格者、Aランク以上大学卒業者、等。

実際的に国の運営に携わる人間達。

国の頭脳となり、表立って人々を指導する。いわゆる、「エリート層」。

ルーラーの存在を知らされていないトップスは、「自分達が世界を動かしているんだ」、と思
い込まされている。

ミドルス

●ミドルス

→中小企業の経営者、軍部将校、Aランク以下大学卒業者、高等専門学校卒業者、高額納税者、等
国の生産に携わる人間達。

ボトムスの人間を使う立場の者が多い。

ボトムス

●ボトムス

→専門学校卒業者、軍部一般兵、高校卒業者、義務教育までしか就学出来なかった者、低所得者、等。

頭脳よりも技術で生計を成す者達。

労働者階級である。

スキャナー

●スキャナー

極稀に、「超能力」、「魔術」、とも呼べる異能を持った者が生まれて来る。

それら異能を総じて「スキャン」と呼び、スキャン能力を備えた者を、「スキャナー」、と呼ぶ。

スキャナーかどうかは、生まれて直ぐにわかる時があれば、成長と共に発覚することもある。

スキャナーとわかった時点で、どの国でも彼らは階層とは無関係に、即座に「スタッド」と呼ばれる、政府管轄の施設に入所させられる。

(乳児期に、スキャナーである、と発覚した者の場合でも、強制的に母親と離別させられる)。

スタッドで、彼らはそのスキャン能力を国の為に活かすような特殊な訓練を受けさせられる。

スタッド卒業後はトップスとして、大体の場合、その国の重要なポジションに就いて活動をする。

...だが実態は、ルーラー達の護衛部隊である。

トップス以下の人間達を監視し、ルーラー達の身を護ることがその本来の使命である。

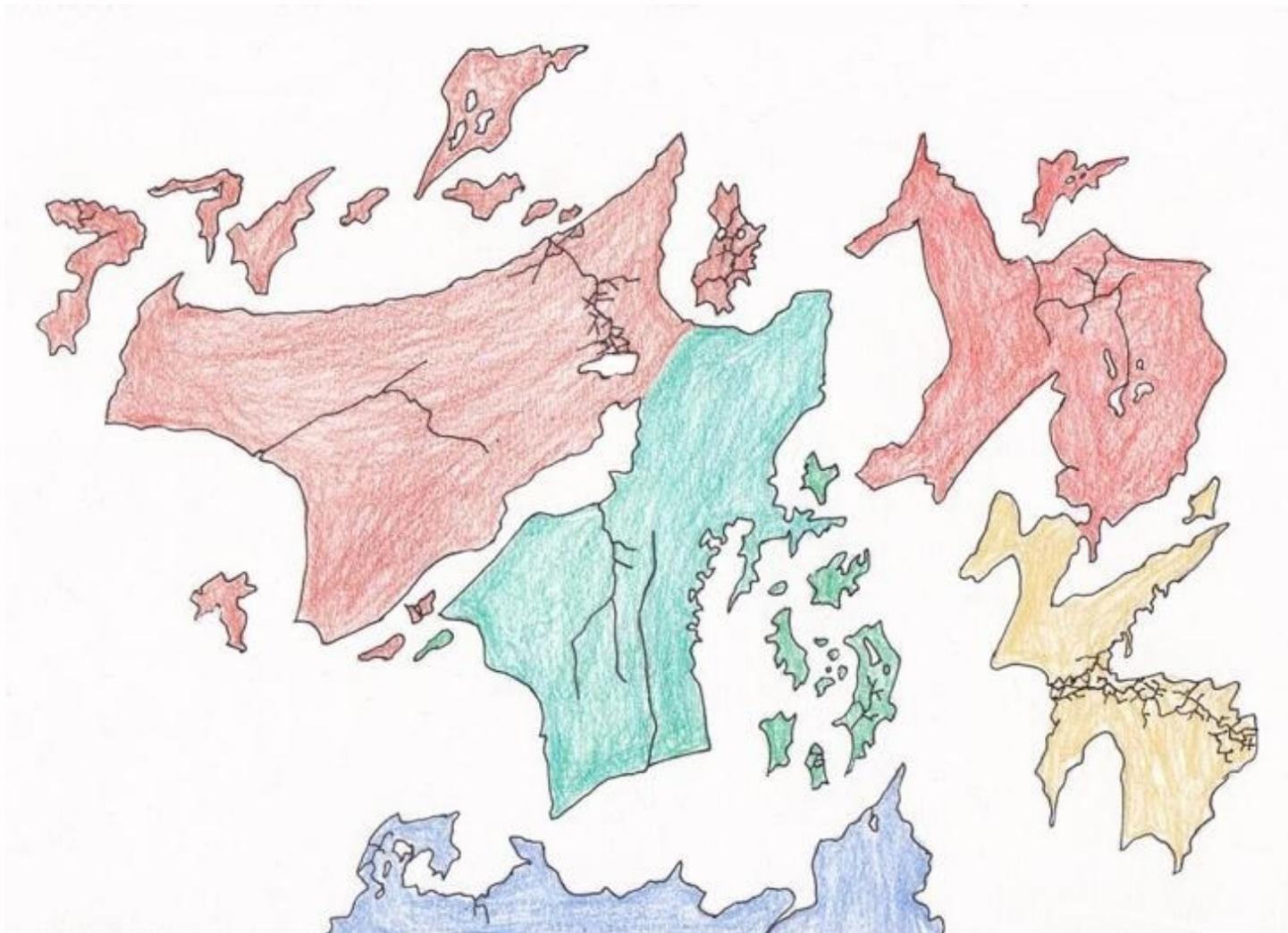
彼らはルーラーの備品、装置、という意味で、「ガジェッツ」、と呼ばれている。

ルーラーが一番恐れるのは、人間の理が通じない、彼らスキャナーである。よって、早い内から、自分達の駒にしよう、と教育するのである。

当然、その真実、ガジェッツの存在を知るのは、ルーラー達とガジェッツ達自身他には、ルーラーとコネクションがある極々一部のトップス、及びスタッドの教官達だけである。

★地理としての世界

『MURAKUMO変容異伝』の世界は、地質学的には5つの大陸を有し、国連加盟国として203の国々が存在している。



ナダ・アシバ大陸

●ナダ・アシバ大陸（色：赤）

→ジバイ大帝連邦国、イーンダス連邦共和国、コウコン自治民主主義国、サンガパウル共和国、等を有する大陸、及び島々。

大陸の中央は砂漠に覆われ、少数民族のサラー、アンガロ、等、俗に「砂漠の民」が、文明国の干渉を受けずに暮らしている。

大陸の大部分は乾燥帯、寒帯であるが、南部の一部は温帯である。

ハマリヤと呼ばれる大山脈が、ジバイ大帝連邦国のゴードンとイーンダスの国境間に聳えている。

ルーシャン大陸との境にあるナスエル国の首都、アムスサリは、[世界4大宗教](#)（エスタ教、欒教、ウジャー教、ヴェスリム教）の内、3宗教（エスタ、ウジャー、ヴェスリム）が聖地としている都市である為、その周辺では宗教紛争が絶えない。

ルーシャン大陸

●ルーシャン大陸（色：緑）

→グレートプロントン連合王国、コランド共和国、ドーバル連邦共和国、ファチャー聖教国、タハナネシャ君主混合共和国、等を有する大陸、及び島々。

ルーサン地方と、アンシャ地方とが合わさった呼称である。

アンシャ地方の殆どは熱帯、亜熱帯気候であり、対してルーサン地方は温暖湿潤気候である地域が殆どである。ルーサン地方の国々は、古来より、文化、文明の発展した国が多い。

15世紀から18世紀、世界中で帝国主義と植民地支配が流行していた時代以来、グレートプロントン、コランド、ドーバル等は列強と呼ばれ、互いに国威を見せようと張り合っていたが、ハイパラダイムシフト後の近年は、これらの国々は地域統合体、**ルーサユニオン（RU）**を組織し、加盟した各国が経済協力をし合うような体制を取っている。

帝国支配時の名残か、アンシャ地方の島国家の多くは独立した今も尚、グレートプロントン等の資産家層達のリゾート地となっている。

北シアダイ大陸

●北シアダイ大陸（色：橙）

→その全てが、ウェイバイ連邦、一国の領土である。

南部は温暖湿潤気候、中部は乾燥帯、北部は寒帯、亜寒帯に属している。

手付かずの美しい自然と、人口過密のハイテク都市が混在している。

大陸を横断するようにオーカン山脈が、縦断するようにマッキーン山脈が走り、十字を描くようにその二つの山脈は交差している。

南シアダイ大陸

●南シアダイ大陸（色：黄）

→バラゼーラ共和国、アヴェザンチン共和国、ペラリ共和国、ダンマク王国、ホリゾニア多民族連邦国、等を有する大陸、及び島々。

殆どの地域が熱帯、亜熱帯に属している。

大陸の中腹、ペラリ、ホリゾニア領と股に掛けて、「**雨樹海**」、と呼ばれる世界最大級のジャングルが生い茂っており、「**雨蛇川**」、と呼ばれる世界一多くの支流を持つ巨大な河が流れている。樹海の奥地には未だ文明のメスが入っていない箇所もあり、古代から変わらない生態系を持つ原始生物も多く発見されていることから、俗にそれらの場所は、「陸地の深海」、とも呼ばれている。

またこの大陸のあちらこちらでは古代遺跡が発見されている。ペラリにある**ミィヤ遺跡**を代表として、それらの中には非常に高度な文明を持った都市が栄えていたことを示す遺跡も見付かっている。

チャーチダウンズ大陸

●チャーチダウンズ大陸（色：青）

→この世界の南極点を含む大陸、及び周辺の島々。

全土は寒帯に属しており、大地のほぼ全ては氷雪で覆われている。

チャーチダウンズ条約により、大陸はどの国の領土にも属していない。

現状では各国が平和利用を目的として、調査隊等を派遣して気象観測基地を建てている。

ウェイバイ連邦

★ウェイバイ連邦

本編主人公、アマミチ＝トキヤが所属する国。

経済、軍事においても、世界第1位の超大国

●政治体制・選挙

→74の「市」から成り、「総市長」と呼ばれる者が元首となり総括する連邦共和国である。

各市の行政は、その市の市政庁の長、「市長」、によって総括されている。

4年に一度、「総市長選」が行われる。

74の各市から、市長ないし、市長からの、承認、推薦を受けた者、1人までが「総市長候補」として、「総市長選」に出馬出来る。

その後、一般国民投票と選挙人投票、連邦政府議員投票を経て、勝利した候補者が、「総市長」、となる。

ウェイバイは全世界で唯一、この「総市長制」により、国家元首を決めている国家なのである

。

●風紀・特質

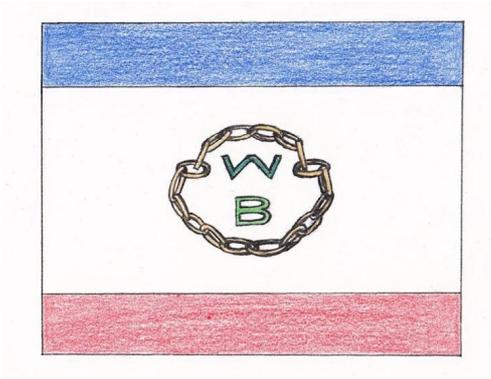
→「自由・平和・平等」を掲げ、あらゆる規制に対して緩やかであり、実力があれば、それに見合った報奨が得られる、という社会的な風潮から、世界中から様々な人間が訪れる。

しかしハイパラダイムシフトが作り出した階層制度、及び長引く経済不況に依るものか、その実、もう既に連邦内部社会では、実力主義、個人主義は廃れており、特にボトムスの間では、陰湿な全体主義、会社主義が横行している。

未だ独立心が強く、常に理想を追い求めることこそが人間らしい生き方である、と考える昔気質な高齢者達と、現実を見つめて他人と協調しながら生きる、という名目のもと、自分から見える周辺世界で小さくまとまって生きることを好とする若者達との間では、一朝一夕では埋まらない価値観の溝が出来ている。

国旗

● 国旗



→青と赤のストライプに挟まれた白のストライプの中央に、「WB（ウェイバイ）」の文字を囲むように、18個の金のリングが葉っぱの形を模して組み合わさっているデザイン。

一般的に「**輪葉旗**」と呼ばれている。

青のストライプは天を、赤のストライプは大地を、白のストライプは人間社会を表し、金のリングは叡智と団結、葉は自由を表している。

18個、というリングの数は、一般的には、連邦建国当初に存在していた市の数を示している、とされているが、一方ではグレートプロントン発祥の秘密結社、「フラウロード」が建国に介入していたことを示唆している、とも言われている。フラウロードにとって18は神聖な、意味のある数字であるからだ。しかし、真偽の程は定かではない。

国章

●国章



表面

→翼を生やした幼児（天使）が、右手に長布を持ち、左手にはヤマユリを持って、天から地上に向かって舞い降りている図が描かれている。長布には、「**真を視る者は塵に宙を、宙に塵を視る者である**」、と書かれてあり、連邦の標語を、またヤマユリはその花言葉にある通り、荘厳、威厳を表し、連邦の向かうべき方向を示している。建国を宣言し、誕生、物事の始まり、をこの図で表現している、とされている。



裏面

→六角形の仕切りの中に12本のヤマユリが敷き詰められている図。六角形の仕切りが棺に見えなくもないので、「生」の表面に対して、裏面は「死」、を表している、と解釈される場合もあるが、一般的には、荘厳、威厳を強調し、時間を表している、とされている。本当の意味は解明されていない。

連邦データ

☆連邦データ

●公用語

→なし。

だが、多くのウェイバイ人はグレートプロントンの公用語、プロントン語を扱い、よってウェイバイ連邦はプロントン語圏とみなされる場合が多い。

●首都

→ウェイバイ市（連邦政府直轄地）。

●政治

→共和制、二院制、総市長制。

現総市長は、コーンダ＝アデマス（共和党）。

●政党

→共和党、自由党、の2大政党の他に、民主保守党、開放党、等の第3党、小政党が24、存在している。

●国教

→定められていない。

連邦全人口から見た、各宗教信者の割合。

エスタ教信者	...	64.8%
ウジャー教信者	...	2.1%
變教（らんきょう）信者	...	0.8%
ヴェスリム教信者	...	0.6%
その他の宗教信者	...	12.2%
無宗教、無神論者	...	15.5%

●面積

→10,823,618K m²（世界第2位）。

●人口

→344,717,000人（世界第2位）。

●通貨

→WBグラス（WBG）。

通常は「グラス」と呼ばれている。

●GDP（WBG表示）

→合計、78兆4,2051億グラス（世界第1位）

●曜日

→16世紀のグレートプロントンで定められた七曜を採用している。

これは世界共通の七曜となっている。

光曜日

樹曜日

払曜日

潤曜日

静曜日

叶曜日

転曜日

●歴史

→※**エスタ教**で「神の子」とされている、**盟主エスタ**が没した年を紀元としている。

16世紀後半、ルーサンの列強諸国が世界各地を植民地支配しようと、競って大航海を行っていた頃、グレートプロントン海軍の船舶旅団、数隻が嵐に巻き込まれ、漂流の末、偶然、当時全くの未知の大陸だったシアダイ大陸を発見する。その時の旅団長だった**シアダイ=ヤーキタ**からその名を取り、シアダイ没後、その新大陸は**シアダイ大陸**と呼ばれるようになる。

シアダイの新大陸発見から約10年後、本格的に新大陸の調査、支配に乗り出したグレートプロントン王室は、シアダイを総隊長とした「新大陸調査隊」を結成、第1次、第2次、と複数回に渡り、多くの兵や研究者を新大陸に送り込んだ。

シアダイ達調査隊は、大陸の先住民だった**マロディアズ**—異物、という意味があり、これはグレートプロントン側からの呼び名である。先住民達は自分達のことを**クロムィア**（雲の民）と呼んでいた—を迫害し、土地を次々と奪い居住区を作り、グレートプロントンの領土であることを主張し始めた。それら至るところに出来た居住区が、**ウェイバイ**と呼ばれるようになる。ウェイバイ、とは先住民達の言語で、集落を意味するウァブと、シアダイが組み合わさって出来た単語である。

シアダイの死後もグレートプロントン王室は調査隊を大陸に派遣し、他の列強諸国と新大陸の統治権を巡って、時に融和し、時に争った。

そして第1次調査から58年後には、グレートプロントンはシアダイ大陸の約65%を支配下に収めることに成功した。

それから永らく、グレートプロントン、及び他の列強諸国は安定したシアダイ大陸支配を続けていたが、18世紀中盤頃からコランドで巻き起こった、王政、君主制を批判する自由解放運動の影響を受けて、シアダイ大陸で生まれ育ったグレートプロントン人（**シアダイ・プロントン人**）達は、本国の支配から離れ、自分達独自の行政を行いたいと考える始めるようになっていた。

次第に彼ら、シアダイ・プロントン人達は、その自分達の意向を認めないグレートプロントン本国と衝突を繰り返すようになり、そして本国の認可が下りないまま、1760年、同じく大陸に住む列強諸国の人間達と協力して「**ウェイバイ連合自治協団**」を結成、そして、各ウェイバイに本国から派遣されて来た本国プロントン人の役人達の住居を焼き討ちし、居住区から追い出す事件を起こすまでに至った。

翌1761年4月、グレートプロントン本国が自治協団のリーダー達を逮捕、処刑したことをきっかけとし、同年7月、遂に自治協団とグレートプロントン、両者は全面戦争となった。この戦争を「**ウェイバイ独立戦争**」と呼ぶ。

戦争は8年10ヶ月にも及び、その間にルーサン地方を襲った伝染病の流行、大飢饉の影響も

あり、1770年5月、ウェイバイ連合自治軍の勝利に終わった。そして終戦を境に、ウェイバイ連合自治協団の独立が認められ、連合自治軍の総司令官であったキッチダ=チョトセイが初代総市長となり、ウェイバイ連邦共和国が誕生した。

しかし、多民族、多宗教、多言語、多様な価値観が入り乱れている為、連邦共和国誕生後も暫くは国内の情勢は安定しなかった。

工業の発展を重視し、工業製品の競争力で他国より優位に立つ為に保護貿易を奨めるプロントン系と、既存の帝国主義に適った植民地支配を採用し、奴隷を使って多くの農作物を作り他国と自由貿易をしたいドーバル系、更に外来系民から差別され迫害され続けるマロディアズ系との、3者間で対立が起こり、1819年、「ウェイバイ市民革命戦争」が勃発した。

5年間に及ぶこの内戦の終盤、1824年1月には、プロントン系出身のサンホーン=リンゾが総市長に就任し、人権の尊重を始め、他の系列市民の意向を汲む代わりに、貿易、外交面ではプロントン系市民の意向を主に採用することを、ヒューダカ市においてドーバル系、マロディアズ系の各代表に約束させ（ヒューダカ条約）、終戦に向かわせた。同年8月にマロディアズ市民軍、ドーバル市民軍が相次いでプロントン市民連合軍に降服し、ヒューダカ条約を呑み、結果、プロントン系市民の勝利で戦争は幕を引いたのである。

また、この時を境に、国の呼称も「ウェイバイ連邦共和国」から「ウェイバイ連邦」に改まり、「自由・平和・平等」を掲げるウェイバイ国第二幕がスタートしたのであった。

20世紀の中盤、3度の世界大戦が終わった時点で、ウェイバイ連邦は、建国当初は18だったその市の数を74にまで増やし、経済面、軍事面でもグレートプロントン連合王国を抜いて、世界第1位の超大国としての存在感を強め始めた。

しかし2001年、ハイパラダイムシフトが起こり、全世界で階層制度が施行されると、ウェイバイ連邦内でもボトムス間では、諦め、反向上、刹那主義に染まる空気が流れ始め、それまで連邦の特色だった、個人主義、実力主義が人々の心から次第に薄れ始めて行く。

それでも、元から備わる軍事力、またトップスやミドルス階層から時折輩出される、革新的なIT系起業家達の支えもあり、2168年の現在でも、ウェイバイ連邦は世界第1位の経済軍事大国の姿を保つに至っている。

☆ムラクモ



●本名

→クロムィア＝ムウラ

●国籍

→ウェイバイ連邦

●人種・民族

→マロディアズ系

●出身地

→ウェイバイ連邦スァロマ市シラヌイ群

●階層

→トップス（ガジェッツ）

●生年月日

→2149年5月10日

(没年：2167年3月31日 享年・17歳)

●血液型

→O型 (RH-)

(蘇生後：不明)

●身長・体重

→蘇生前：身長=147.2cm 体重=34.5kg

蘇生後：身長=147.2cm以上 体重=34.5kg以上

※蘇生後、液状化する身体を持ったムラクモは、捕食し、消化(アブソォ)した分だけ、背が伸び、体重が増える。

●好きなこと

→食事・破壊行為・旅行・昼寝・音楽鑑賞・高いところから下を眺めること・スカイダイビング(パラシュートなし)

●嫌いなこと

→束縛・他人の理屈・不衛生・急かされること・食べ物を粗末に扱うこと・辛い食べ物・喫煙・重い荷物を持つこと・心霊現象

●好きな色

→赤・白

●好きな季節

→夏(7月初旬～中旬)

●生い立ち・略歴

2149年5月10日 ウェイバイ連邦スァロマ市シラヌイ群生まれ

↓

2149年7月1日 ウェイバイ連邦スタッド 入所

↓

2158年8月31日 ウェイバイ連邦スタッド 卒業

↓

2158年9月1日 ウェイバイ連邦国立防衛大学情報処理学領域システム工学科 入学

↓

2159年1月22日 ウェイバイ連邦国立防衛大学情報処理学領域システム工学科 退学

→2149年5月、マロディアズ系市民が多い、スァロマ市のシラヌイ群にて、**クロムィア**の祖と言われる家系の末裔である父と、同じくクロムィアのト占師の血を引く母との間に、7人兄妹の4番目の子として生まれる。

「クロムィア」を姓に持つ父方の家系は、元来、王族の頂点に立ち、大陸を支配する大権力者達であったが、列強諸国から外来人が侵略して来て以来、宗家を含めその血筋を汲む家系は次々と途絶え、同時に力も失い、現在ではムラクモの家族のみしか「クロムィア」を名乗らず、一マロディアズ系市民と成り果ててしまっている。

クロムィア＝ムウラ（ムラクモ）は潜在的知能指数を測定するテストも受けられない極貧の家庭に生まれた為、生後直後は、父母、兄姉達と同じくボトムス階層に振り分けられたが、間もなく、触れていないのに物を止めたり動かすようなスキャン能力を発現し出し、スキャナーと認定され、生後2ヶ月でスタッドに入所する。両親との離別の間際、ムウラは両親が、自分と離別することよりも、口減らしが出来たこととトップスとの繋がりが出来たことに歓喜していることを察し、それ以降、彼は愛情というものを信用しなくなる。

スタッドでのムウラは「連邦スタッド開設以来の大天才」と教官達から言わしめる程優秀で、1歳と半年にして、あらゆる学科においてAランク大学入学レベルの学力を有し、2歳になる頃には体術でも大人をねじ伏せる程になっていた。

またスキャン能力の特訓、開発でも他を寄せ付けない程の高成績を修め、実にスムーズに、ガジェッツになる為のカリキュラムをこなして行った。

6歳の時、当時15歳でスタッドに入所して来た、**メッシュウ＝ヒルコ**と知り合う。

とある1つの事件をきっかけに、ムウラはヒルコを気に入り、二人は共に思想を共有する仲になる。ムウラはヒルコを人生で最初の「友達」として認める。

またこの頃から、ムウラはヒルコの前に居る時だけ、自分のことを「ムラクモ」と名乗るようになる。

「クロムィア＝ムウラ」の姓と名の位置を逆転させ、プロントン語風アレンジを加えて読ませただけであるが、それだけでムィアは憎むべき親に復讐し、一族との繋がりを絶ち切ることが出来たような気分になった。

尚、クロムィア＝ムウラの「ムウラ」とは、古いクロムィア語で、「花曇り」という意味を持っている。クロムィアの家系の者は天候にまつわる名前を付けられることが多いが、自分の場合は男か女か判断できなかったから、そう名付けたのだろう、とムラクモ自身は言う。

また、ボクは1ミリ足りともその名前を気に入っていない、以前は多少、クロムィアであることに誇りを感じていた時期もあったが、今は恥じることもなければ何の感情も持っていない、と彼は語る。

2158年8月、9歳となり、スタッドを卒業したムラクモは、建前上は「近い将来、連邦の防衛に役立てるように」と、多くのスタッド卒業生達と同じように、連邦国立防衛大学に席を置くことになった。しかし当然、その裏では、陰からルーラーを警護する護衛部隊隊員、ガジェッツとして活動した。

ムラクモ達のボスであるルーラーは、表面上はネアルコという名を使い、ドーバル国籍のミドルス階級で、どこにでも居そうな青年実業家風を装っていたが、ルーラーとしての本性は、非常に風変わり、クセの強い人物であった。

任務を果たして行く内に、ネアルコから「力の使い方と心得」を学んだムラクモは、そこで初めて「自分の生きている意味」を悟り、「何のものにも束縛されない、真の支配者」を目指し始める。

早速、ムラクモは仲間のガジェッツ達を殺し、ネアルコの元から離れると、自由の身となった彼は故郷に戻り、両親を殺害した。

そしてスタッドに乗り込み、ヒルコを仲間に引き入れる。

真の支配者として、自由を満喫したいムラクモは、ヒルコと共に、その場の気分で手当たり次第に人々を殺し、物を破壊して行った。

気まぐれが許される、その現実こそが支配者の証明であり、最強の武器であった。

星の重力を含め、あらゆる束縛を感じさせない、究極の自由、を体現出来る者こそ、この世の理を制する真の支配者である、とムラクモは考え、そうすることに相応しい力を持って生まれて来た、自分の宿命である、と考える。

完全にルーラー達の敵となり、国際S級テロリストとして世界一のお尋ね者となったが、ムラクモは文字通りそれらを歯牙にも掛けず、全ての現象を愉しむかのように、ひらひらと宙を舞う。

☆アマミチ=トキヤ



●本名

→アマミチ=トキヤ

●国籍

→ウェイバイ連邦

●人種・民族

→プロントン系

●出身地

→ウェイバイ連邦ヌマツ市

●階級

→ボトムス

●職業

→警察官（ウェイバイ市警生活安全局保安課巡査長）

※2168年3月2日付けで自己都合退職。

●生年月日

→2143年12月20日（2168年3月現在・24歳）

●血液型

→A型

●身長・体重

→身長=177.5cm 体重=68.5kg

●好きなこと

→正義・ビリヤード・サイクリング・バイク、車いじり・ネットサーフィン・料理・筋力トレーニング

●嫌いなこと

→悪事・偽善・喧騒・ジャンクフード・ギャンブル・テレビ・女の甘えた声・高いところ

●好きな色

→黒・白

●好きな季節

→晩秋（11月中旬～下旬）

●生い立ち・略歴

2143年12月20日 ウェイバイ連邦ヌマッツ市生まれ
↓
2156年8月31日 ヌマッツ市立北ヌマイツミ小学校 卒業
↓
2159年8月31日 ヌマッツ市立北ヌマイツミ中学校 卒業
↓
2159年9月1日 ヌマッツ市立ヌマッツ第一高等学校 入学
↓
2162年8月31日 ヌマッツ市立ヌマッツ第一高等学校 卒業
↓
2162年9月1日 ウェイバイ市立ウェイバイ市警察専門学校 入学
↓
2164年8月31日 ウェイバイ市立ウェイバイ市警察専門学校 卒業

→2143年12月20日、ウェイバイ連邦西部の小規模都市、ヌマッツ市にて、中学校教師である両親の間に、長男として生まれる。

生後直ぐに測定した潜在的知能指数ではミドルス階級の水準値を打ち出したが、両親がボトムス家系であったことから、「ミドルスに限りなく近いボトムス」、という扱いで、ボトムス階級に振り分けられる。6年後、両親にとって長女となる、妹のタミが生まれる。タミはトキヤよりさらに高い潜在的知能指数を有していたので、ミドルス階級に振り分けられた。

それらのことが、物心の付いたトキヤに、微かではあるが拭いきれない劣等感を植え付けさせた。

幼少期より、勉強も運動も十人並み以上にこなしたが、決して活発という訳ではなく、融通の利かない性格から、友人関係を作るのも上手ではなかった。基本的には家に籠って遊ぶ方で、常に彼の遊び相手になっていたのは、幼馴染のホクトウ＝ベイリンぐらいであった。両親が共働きである為、タミの面倒も良く見ていたが、反面、時折、タミをいじめては後で両親から罰を食らっていた。

また手先が器用で工作を得意とし、図画工作の時間では子供とは思えない精巧さで、リアリティのある模型の数々を作っていた。小学5年生の頃には「全国こどもプラモ作りコンクール」で、ヌマッツ市代表で出場し、5位になったこともある（ただ、審査は明らかにボトム階層の子に不利に働くようになっており、トキヤは、「もし自分がトップスの子供だったら間違いなく優勝出来た」、と未だに思っている。故に、彼はそれ以来、工作が嫌いになり、物作りの道を諦めて

しまった)。

万事消極的ではあったが、クラス委員の仕事は率先してこなし、教師の間での評判は良かった。

小学校高学年に差し掛かると、「クラスのルールに関わる仕事を進んですることで、自分の存在を認められる」、ということを知ったトキヤは一転、明るい性格となる。

またこの時より、規律のある制服を着た仕事に憧れるようになり、軍部のエリートを目指すようになる。

その夢を叶える為、トキヤは懸命に勉強し、連邦国立防衛大学に多くの入学希望者を出している、私立の名門学園の中等部に入学を希望するが、ボトムス階級である、という理由で学園側から受験すら拒否される。

周囲のボトムス階級の子供達同様、トキヤは学区内にある、両親の勤務先でもある市立中学に入学するが、既に彼は人生に夢を抱けなくなっており、それまで以上に心を塞いでしまっていた。

入学1週間目で、ボトムス階級の不良の上級生達から目を付けられ、殴られ、結果、トキヤは学校に行かなくなってしまった。

彼はボトムスという存在の全てを憎み、両親とタミに言葉に出来ないフラストレーションをぶつけ、遂には家出をするに至った。

当てもなく、各市を転々とし、家出から約1ヶ月目で、トキヤはヌマッツ市から東に550km程離れた連邦首都、ウェイバイ市に辿り着く。金も尽き、空腹に耐え兼ね、コンビニで菓子パンを万引きをしたところで、彼は店主に捕まった。階級を訊かれ、ボトムスと判明するや、トキヤはメタメタに殴られ、蹴られた上で、警察を呼ばれる。

やって来た警官は、ウェイバイ市警生活安全局青少年保護課のナビラス＝リュウジと言う警官であった。ナビラスは弱り切ったトキヤを見るや、トキヤが盗んだ菓子パン分の金額をコンビニ店主に渡し、「このパンは私が買ったものだ。君はただそれを、『友達』である私から貰っただけなんだ」と言い、菓子パンをトキヤに手渡すと、パトカーに乗せた。ナビラスは、「私は君を逮捕しなければ補導もしない。ただし、これからご両親の元まで送るがな」とだけ言い、丸々徹夜して、トキヤをヌマッツ市の実家まで送り届けた。

「君は自力でここまで戻って来たことにしろ。もう、家出なんかするなよ」とナビラスは言い、トキヤを家から一区画離れたところで下ろすと、ウェイバイ市に去って行った。

その時、トキヤは生まれて初めて、悲しみと怒り以外の涙を流した。正義、というものを初めて知った気がした。

警官になろう、ナビラス巡査のような警察官になろう、とトキヤは決意した。それと同時に、ナビラスもボトムス階級だったことから、ボトムスに対する嫌悪感も、波が引くように去って行った。

疲れを癒した後、トキヤは学校に行き始めた。

ボトムス階級の人間達の品性に欠ける素行を見る度に、彼は、「オレはボトムス階級の人間が憎いのではない、ボトムス階級的なものの在り方、考え方が憎いんだ」、と思考の舵を執るようになっていた。

また、その考え方は次第に、「悪事を許さない心」、を育み、正義の代表格である警察、厳密に言えばナビラスへの憧れを一層強いものにして行った。

彼の中では、法律を守らない行い、が悪事なのではなく、品性のない行い、が悪事になっていた。正義とは品性を守り、正すことであり、警察とは、品性の守り神である、とトキヤは捉えていた。

人間が存在するから悪事が存在する、ではなく、悪事が存在するから取るに足りない人間が存在してしまう、という風に、まるで、悪事（品性の欠如）、という眼に見える魔物が存在し、人間をたぶらかしているのだ、という考え方を、トキヤは持つに至っていたのだった。

ボトムス階級で進学出来る中ではトップクラスの高校である、ヌマッツ第一高等学校を卒業したトキヤは、両親を説得し、ウェイバイ市警になる為、ウェイバイ市警察専門学校に入学する。当然、それはナビラスの影を追った結果であった。またウェイバイ市警察専門学校を出て、連邦政府直轄地公務員として一定の功績を収めれば、ボトムス階級でも国家試験Ⅰ種を受験できる資格が与えられるのも、もう一つの大きな理由だった。国家試験Ⅰ種さえ通過すれば、トップス、警察キャリアになり、より大規模に、抜本的に、国の悪を取り除くことが出来る、とトキヤは考えたからだ。

ウェイバイ市警察専門学校を卒業し、晴れてトキヤはウェイバイ市警になった。

しかし、彼は2つの事実を知り、愕然とする。

1つは、絶対の正義だと信じていた警察組織が、実はマフィアや闇組織と水面下で繋がっていたこと。そしてもう1つは、その2年も前に、既にナビラスが殉職していた、という事実だった。

ナビラスの墓前に花を手向け、トキヤは例え自分1人になっても、生涯正義の為に生きることを約束する。

☆アマミチ=タミ



●本名

→アマミチ=タミ

●国籍

→ウェイバイ連邦

●人種・民族

→プロントン系

●出身地

→ウェイバイ連邦ヌマツツ市

●階級

→ミドルス

●職業

→大学生

●生年月日

→2149年2月5日（2168年3月現在・19歳）

●血液型

→AB型

●身長・体重

→身長=162.7cm 体重=46.0kg

●好きなこと

→動物を飼うこと・イラスト制作・アニメ、漫画鑑賞・入浴・スパイスの効いている料理

●嫌いなこと

→暴力的なこと・偏見・機械類全般の操作・早起き・運動全般・薬品臭い味のする料理

●好きな色

→淡い橙色

●好きな季節

→晩夏（8月下旬～9月上旬）

●生い立ち・略歴

2149年2月5日 ウェイバイ連邦ヌマツツ市生まれ

↓

2152年5月1日 連邦国立ヌマツツ市ミドルス育成保育園 入園

↓

2155年9月1日 私立チューカチ学園燐光 小等部 入学

↓

2161年8月31日 私立チューカチ学園燐光 小等部 卒業

↓

2161年9月1日 私立チューカチ学園燐光 中等部 入学

↓

2164年8月31日 私立チューカチ学園燐光 中等部 卒業

↓

2164年9月1日 私立チューカチ学園燐光 高等部美術コース 入学

↓

2167年8月31日 私立チューカチ学園燐光 高等部美術コース 卒業

↓

2167年9月1日 ヌマツツ市立大学獣医学部鳥獣医学科 入学

※2168年3月現在、幼馴染であるホクトウ=ペイリンと婚約中。

☆ホクトウ=ペイリン



●本名

→ホクトウ=ペイリン

●国籍

→ウェイバイ連邦

●人種・民族

→プロントン系

●出身地

→ウェイバイ連邦ヌマツツ市

●階級

→ボトムス

●職業

→地方公務員

●生年月日

→2143年9月27日（2168年3月現在・24歳）

●血液型

→A型

●身長・体重

→身長=180.5cm 体重=74.0kg

●好きなこと

→昆虫採集・標本作り・整理整頓・スクラップブック作り・野球観戦

●嫌いなこと

→カラオケ・不規則な生活・時間にルーズな人間・虫を平気で殺す人間

●好きな色

→黄色

●好きな季節

→春（3月下旬～5月上旬）

●生い立ち・略歴

2143年9月27日 ウェイバイ連邦ウラガン市生まれ

↓

2156年8月31日 ヌマッツ市立北ヌマイツミ小学校 卒業

↓

2159年8月31日 ヌマッツ市立北ヌマイツミ中学校 卒業

↓

2159年9月1日 オオツワ区立ヌマッツ工業高校 入学

↓

2162年8月31日 オオツワ区立ヌマッツ工業高校 卒業

↓

2162年9月1日 ヌマッツ市都市計画局庶務課 入庁

↓

2163年6月1日 ヌマッツ自然博物公園 昆虫館事務室 へ異動

※2168年3月現在、幼馴染であるアマミチ=タミと婚約中。

MURAKUMO変容異伝 CM

その1

<http://www.youtube.com/watch?v=zIV4DYeF668>

その2

<http://www.youtube.com/watch?v=OTGj7GUlcTY>

その3

<http://www.youtube.com/watch?v=e7SZW1J2b2M>

MURAKUMO変容異伝 Details Book -ame-

<http://p.booklog.jp/book/21797>

著者：大城拓人

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/takuto-oshiro/profile>

発行所：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/21797>

ブックログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/21797>